MA1009-A

CASIO

P

5097＊JA

取扱説明書

保証書付

5097

このたびは、弊社製品をお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。
末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。
本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本書に記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。
なお、この説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

※ 本書に記載の製品イラストの中には、視認性を考慮して、実際のものとは異なる描写を行っているものがあります。ご了承ください。

■本機の特長

●ソーラーパワー

●電波時計

●ストップウオッチ

ご使用前に十分に光を当ててください

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。安定してお使いいただくために、本書に従って、光が当たるようにしてお使いください。
（充電時間については、10 ページの「充電の目安」をご参照ください）

安全上のご注意

絵表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠**危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠**警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠**注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています（左の例は感電注意）。



⃠ 記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています（左の例は分解禁止）。



● 記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）。

⚠ 警告

本機をスキューバダイビング（アクアラング）に使用しないでください。



- 本機はダイバーズウオッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。

電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠ 注意

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからサビが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとサビ易くなります。

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

① 金属・皮革に対するアレルギー
② 時計の本体およびバンドの汚れ・サビ・汗等
③ 体調不良等

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
- 「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
- 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

⚠ 注意

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。



ご使用にあたって

時計表示の確認は、思わぬ転倒やケガの予防のため、十分に安全が確認された場所で行ってください。特に、道路でのマラソンやジョギング、自転車やバイク・自動車等の運転中は事故の原因になることがありますので、十分にご注意ください。また、第三者への接触による事故防止にも十分にご注意ください。

時計着脱の際に、中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

思わぬケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。

お使いになる前に

■十分に光を当ててください

本機は、光で発電した電気を二次電池に充電しながら使うようになっております。保管期間により電池容量が減っている場合がありますので、お使いいただく前に十分に充電してください。詳しくは 8 ページをご覧ください。

●充電切れ予告

二次電池の容量が少なくなると、秒針が 2 秒ごとに動き、充電不足をお知らせします。詳しくは 9 ページをご覧ください。



2秒ごとに動く

■パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに本機を放置すると自動的に針の動きを停止してスリープ状態にし、節電する機能です。
文字板に光をあてるかボタン操作をすることでスリープ状態は解除されます。

※ 針は停止していますが、時計内部では時を刻み続けています。

※ 時計が袖などで隠れている場合でも、スリープ状態になることがあります。

※ ストップウオッチモードのときは、スリープ状態になりません。

※ スリープ状態が解除され、正しい時刻を指すまでに最長 14 分掛かります。

<参考>スリープ状態になるには

●スリープレベル 1
午後 10 時～午前 6 時の間、暗いところで本機を約 1 時間放置したとき。

- 秒針がその場で停止します。

※ 時針、時針（24 時間制）、分針は動き続けます。
※ 自動受信をします。

●スリープレベル 2
スリープレベル 1 のまま暗いところで 6 ～ 7 日間経過したとき。

- 時針、時針（24 時間制）、分針はその場で停止します。
- 自動受信をしません。

目次

安全上のご注意 表紙裏面

お使いになる前に 4
- 十分に光を当ててください 4
- パワーセービング機能について 4

操作のしくみと表示の見方 6

ソーラー充電について 8

電波時計について 11
- 電波時計とは 11
- 標準電波 11
- 電波の受信範囲の目安 12
- 受信時間について 13
- 電波受信をするときの場所について 13
- 受信方法について 14
- 受信結果の確認 15
- 受信に関するご注意 15
- こんなときには 16

ストップウオッチの使い方 17
- 計測のしかた 17

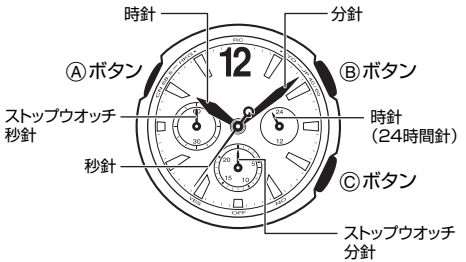
電波の受信場所を選択する／時刻合わせ 18

針の基準位置合わせ 20

- 製品仕様 23
- ご使用上の注意 26
- お手入れについて 29
- 本製品で使用している電池について 30
- 金属バンドの駒詰めについて 30

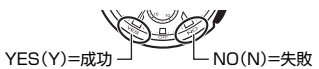
操作のしくみと表示の見方

※機種により形状は異なります。



●電波受信確認

Ⓐ ボタンを押すと、秒針が「YES (Y)」または「NO (N)」の位置に移動し、受信が成功したかどうかを確認できます。



※ 何も操作をしないと約 5 秒で時刻表示に戻ります。

●手動受信

Ⓐ ボタンを約 2 秒間押し続けると、秒針が「RC」（受信中）の位置に移動し、電波受信が開始されます。

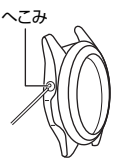


※ 電波受信については 11 ページ参照

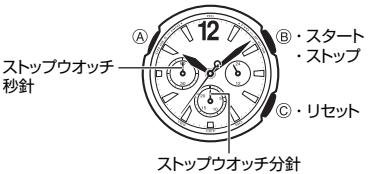
＜ご注意＞

Ⓐ ボタンは誤動作を防ぐために、指で簡単に押せない構造になっています。先が細いものなどを使用して、ボタンのへこみ部分を押して操作してください。

※ 本書ではわかりやすいよう Ⓐ ボタンを目立たせて表示しています。



ストップウオッチ機能



- 1 秒単位で 20 分 00 秒(20 分計)まで計測できます。

●スタート／ストップ

Ⓑ ボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。

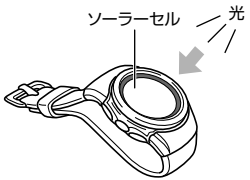
●リセット

Ⓒ ボタンを押すと、計測がリセットされます。

ソーラー充電について

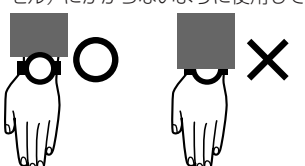
本機は、光で発電した電気を二次電池に充電しながら使うようになっております。
安定した状態でお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●腕から外したときは文字板（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

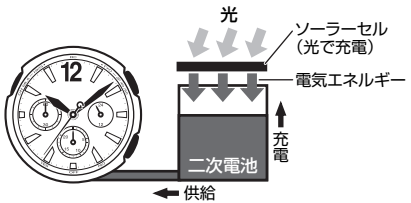
●腕に付けているときはなるべく衣類の袖が文字板（ソーラーセル）にかからないように使用してください。



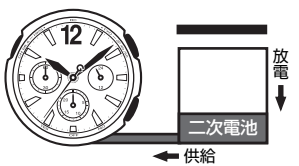
一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

●光が当たっているときと当たらないとき

〈光が当たっているとき〉



〈光が当たっていないとき〉



時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは二次電池の容量が減って機能が使えなくなります。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。
- 炎天下に駐車中の車のダッシュボード
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

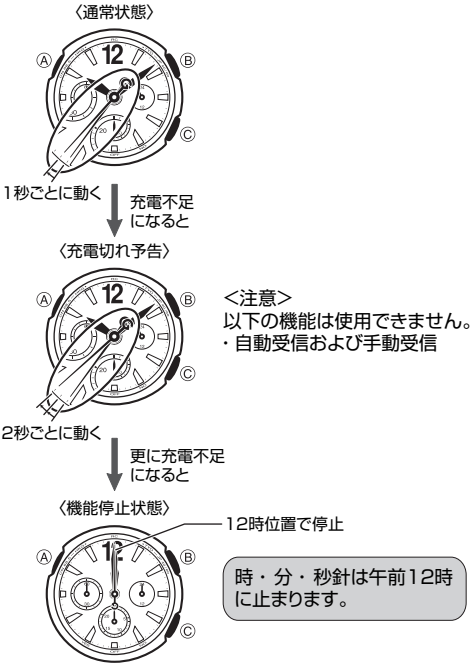
●充電切れ予告

二次電池の容量が少なくなると、秒針が 2 秒ごとに動き、充電不足をお知らせします。

※ 機能停止状態になっても再度充電をすると使用できます。

※ 機能停止状態から充電したときは、十分に充電されると針が現在時刻の位置まで移動します。

※ 通常状態になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。



●充電の目安

- 安定した状態で時計を使用するために必要な 1 日当たりの充電時間

※ 1 日当たり約 3 分間、電波受信をする場合。

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000 ルクス）	約 8 分
晴れた日の窓際など（10,000 ルクス）	約 30 分
曇り日の窓際など（5,000 ルクス）	約 48 分
蛍光灯下の室内など（500 ルクス）	約 8 時間

※ こまめに充電をすれば、安定した状態でご使用いただけます。

- 各状態に回復するために必要な充電時間

環境（照度）	充電時間	
	動き始めるまで	フル充電まで
晴れた日の屋外など（50,000 ルクス）	約 3 時間	約 35 時間
晴れた日の窓際など（10,000 ルクス）	約 8 時間	約 134 時間
曇り日の窓際など（5,000 ルクス）	約 13 時間	約 216 時間
蛍光灯下の室内など（500 ルクス）	約 149 時間	---

※ この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に 1 秒未満のずれが生じます。

■ 標準電波

- 日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県の「おおたかどや山（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山（60kHz）」から送信されています。
- 中国の標準電波（BPC）は中国科学院の国家授時中心（NTSC）が運用しており、河南省商丘市から送信されています。

※ 標準電波や送信所に関する情報は、変更になる場合があります。

日本の標準電波はほぼ 24 時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。
詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）日本標準時プロジェクトのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp/

※ ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

■ 電波の受信範囲の目安

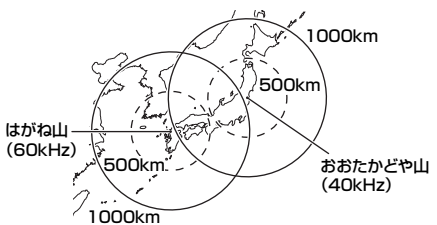
本機は、受信場所を下記の都市に設定すると、その都市に対応した標準電波を受信します。

※ 受信場所の設定については 18 ページ参照

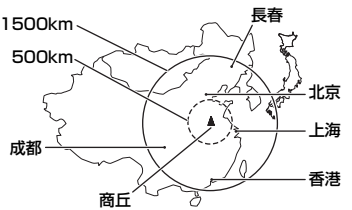
受信場所（受信機能対応都市）	電波受信
TYO	日本の標準電波（JJY）
HKG	中国の標準電波（BPC）

送信所の位置

<日本(JJY)>



<中国(BPC)>



● 受信環境により、図の範囲内でも電波を受信できない場合があります。内側の円の範囲を越えると電波が弱くなりますので、受信環境の影響はより大きくなります。

※ 受信に影響を与える環境・・・地形、建物、天気、季節、時間帯（昼・夜）、各種ノイズ

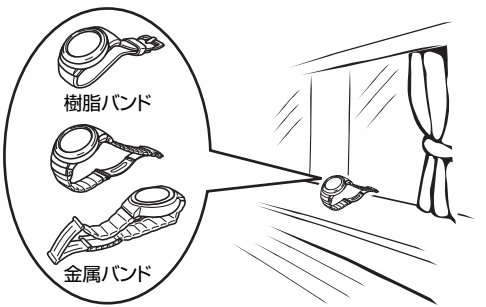
■ 受信時間について

受信時間はおよそ２～７分です。

※ ただし、周波数を変えて再受信するため、最大 14 分かかる場合があります。

■ 電波受信をするときの場所について

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12 時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



● 時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。

● 受信中、時計を動かさないようにしてください。

●ご注意

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信をしてください。

※ 電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



ビルの中
およびその周辺
（ビルの谷間など）



高圧線、架線の近く



乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）



家庭電化製品、
ＯＡ機器のそば
（テレビ、スピーカー、FAX、パソコン、携帯電話など）



電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）



山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■受信方法について

受信方法には、以下の２種類があります。

1 自動受信

１日最大３回

（TYO：午前２、３、４時に自動受信します
HKG：午前１、２、３時に自動受信します）

※１日１回受信が成功すれば、その日は自動受信をしません。

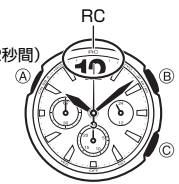
2 手動受信

（ボタンを押して受信を開始します）

時刻モードのとき、

Ⓐ ボタンを約２秒間押し続けます

➡秒針が電波受信結果を表示後、「RC」（受信中）位置に移動します。



★受信を中止するときは

いずれかのボタンを押します

※ストップウオッチ計測中は、受信しません。

●受信中

秒針が「RC」（受信中）位置に停止します。

※時・分針は通常通り動きます。

※受信が完了するまで、時計を動かさないでください。

●受信完了

- 受信が成功すると、修正された時刻に合わせて秒針が動き出します。
- 受信が失敗すると、受信操作前の時刻に合わせて秒針が動き出します。

■受信結果の確認

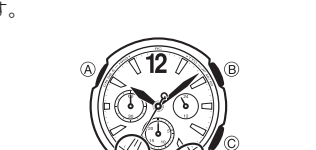
時刻モードのとき、

Ⓐ ボタンを押します

➟受信結果確認状態になり、受信結果を表示します。受信が成功しているときは秒針が「YES」（または「Y」）を指し、受信が失敗しているときは「NO」（または「N」）を指します。

※ 時刻モードに戻すには、Ⓐ ボタンを 1 回押します。

※ 約 5 秒間何も操作をしないと、自動的に時刻モードに戻ります。



受信結果は受信ごとにリセットされます。

■受信に関するご注意

- ストップウオッチ計測中・パワーセービング中は、電波受信をしません。
- 電波受信中にボタンを操作すると、受信を中断します。
- 受信は送信されている電波の届く範囲内で行ってください。
  ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、受信しなおしてください。
- 電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- 電波受信をしないときは、製品仕様に記載の精度で動きます。
- 極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。

■こんなときには

1. 電波が受信できません。

- 電波受信環境が悪い場所にいませんか。
  電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行ってください（13 ページの「電波受信をするときの場所について」参照）。
- 電波が受信できない地域にいませんか。
  電波受信ができる地域は、12 ページの「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。
- 受信場所（使用する場所）が間違って設定されていませんか。
  受信場所の設定が合っていない場合は、電波受信をしません。18 ページの「電波の受信場所を選択する／時刻合わせ」をご覧になり、受信場所（使用する場所）を正しく設定してください。
- 電波の送信が中断していませんか。
  電波時計が利用している標準電波は、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれています。

- 電波時計は標準電波を受信して時刻修正をしますが、時計内部の演算処理等により若干（1 秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻が合っていません。

- 受信場所（使用する場所）の設定が日本（TYO）ではなく、外国都市に設定されていませんか。
  18 ページの「電波の受信場所を選択する／時刻合わせ」をご覧になり、受信場所（使用する場所）を正しく設定してください。
- 針が基準位置からずれていませんか。
  強い磁気や衝撃を受けると、針が基準位置からずれることがあり、正しい時刻を表示できません。詳しくは 20 ページの「針の基準位置合わせ」をご覧ください。

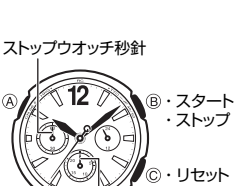
ストップウオッチの使い方

本機のストップウオッチは 1 秒単位で 20 分 00 秒（20 分計）まで計測できます。
計測範囲を超えると、自動的に停止します。

■計測のしかた

Ⓑ ボタンを押します

➟Ⓑ ボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。



●通常計測

Ⓑ スタート → Ⓑ ストップ → Ⓒ リセット

※リセットすると、ストップウオッチ分・秒針が基準位置（12 時位置）に戻ります。
このときストップウオッチ秒針が、1 周多く逆回転した後に正回転で 1 周回る動作をすることがあります。

積算計測…ストップ後リセットせずに Ⓑ ボタンを押すと、表示タイムに引き続き計測を再開します。

電波の受信場所を選択する／時刻合わせ

電波受信可能な場所で本機をお使いいただくときは、受信機能対応都市を設定することができます。
電波を受信できない場所でお使いいただくときは時刻を合わせてお使いください。

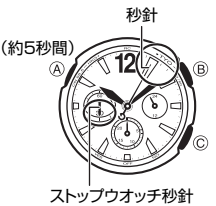
1. セット状態にする

時刻モードのとき、

Ⓐ ボタンを約 5 秒間押し続けます

➡秒針が受信場所の位置に移動し、ストップウオッチ秒針が「30」位置に移動します。

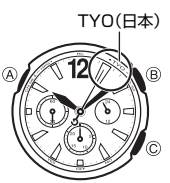
※ 秒針は電波受信結果を指針した後、「RC」位置に移動し、さらに押し続けると受信場所の位置に移動します。



2. 受信場所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに受信場所が切り替わります。



受信場所 （受信機能対応都市）	受信可能地域
TYO（東京）	日本
HKG（香港）	中国
OFF	受信しません

※ 日本・中国以外の地域で使う場合は、OFF に設定して、時刻の修正をしてください。OFF に設定した場合、電波を受信しません。

3. Ⓐ ボタンを押して次に進む

Ⓐ ボタンを押します



➡選んだ受信場所によって応答が変わります。

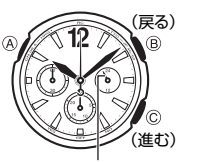
応答 1 … 時刻の秒針とストップウオッチ秒針が 12 時位置を指します。

応答 2 … 時刻表示に戻ります。変更した都市の時刻を表示するまで、針が早送りで回り続けます。

以前の受信場所	選んだ受信場所	応答パターン
TYO（東京）	TYO（東京）	応答 1
	HKG（香港）	応答 2
	OFF	応答 1
HKG（香港）	TYO（東京）	応答 2
	HKG（香港）	応答 1
	OFF	
OFF	TYO（東京）	応答 2
	HKG（香港）	
	OFF	応答 1

4. 時・分をセットする

Ⓒ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓒ ボタンを押すごとに 1 分ずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに 1 分ずつ戻ります。

※ Ⓒ または Ⓑ ボタンを約 2 秒間押し続けてからボタンを離すと、針が自動的に 1 時間分早送りされます。

※ Ⓒ と Ⓑ ボタンを同時に押すと、針が自動的に 24 時間分早送りされます。

※ 早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

※ 時を合わせるときは、24 時間針にもご注意ください。

5. セットを終了する

Ⓐ ボタンを押します



➡秒針が動き始め、セット状態が解除されます。

※ 時報に合わせて押すと、正確に合わせられます。

※ セット状態のまま 2 ～ 3 分間すると、自動的にセット状態が解除されます。

針の基準位置合わせ

強い磁気や衝撃を受けると、針や日付が基準位置からずれることがあり、電波を受信しても正しい時刻を表示できません。以下の操作を行って針や日付の基準位置を確認し、ずれている場合は、基準位置を合わせてください。

※ 時刻が合っているときは、針の基準位置を合わせる必要はありません。

※ 針位置の調整のため、針が基準位置に移動するまでに最長約 14 分かかります。また調整後に針が時刻表示に戻るときも最長約 14 分かかります。

※ 上手に合わせるためのヒント
Ⓑ ボタンで針を基準位置より多く戻してから、Ⓒ ボタンで基準位置まで進めて合わせると、正確に合わせやすくなります。

1. **基準位置（12 時位置）を確認する状態にする**

時刻モードのとき、

Ⓐ ボタンを約 10 秒間押し続けます



➡分･秒針が基準位置（12 時位置）に移動します。

※ 秒針は電波受信の結果を表示後、「**RC**」位置に移動します。そのまま Ⓐ ボタンを押し続けると、秒針は受信場所の位置に移動します。さらに Ⓐ ボタンを押し続けると、秒針が逆回転を始めます。逆回転を始めてから Ⓐ ボタンを離してください。

★ 針が基準位置に停止した場合は、手順 ***4.*** に進みます。

基準位置のずれが±15分0秒以内の場合

2. 基準位置を合わせる

Ⓒ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓒ ボタンを押すごとに 1 秒ずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに 1 秒ずつ戻ります。秒針・分針を基準位置（12 時位置）に合わせます。

※ Ⓒ または Ⓑ ボタンを約 2 秒間押し続けてからボタンを離すと、自動的に早送りされます。

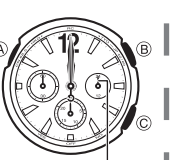
※ 早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

★ 設定が終わったら、手順 *4.* に進みます。

基準位置のずれが±15分0秒を超える場合

2. 基準位置を設定する状態にする

Ⓑ ボタンと Ⓒ ボタンを同時に押します



➡時・分・秒針と 24 時間針が基準位置（12 時位置）に移動します。

3. 基準位置を合わせる

Ⓒ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに 1 秒ずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに 1 秒ずつ戻ります。時・分・秒針と 24 時間針を基準位置（12 時位置）に合わせます。

※ Ⓒ または Ⓑ ボタンを約 2 秒間押し続けてからボタンを離すと、自動的に早送りされます。

※ 早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

※ 24 時間針は時・分針に連動して動きます。

★ 設定が終わったら、手順 *4.* に進みます。

4. ストップウオッチ分・秒針の基準位置を設定する

Ⓐ ボタンを押します

➡ストップウオッチ分・秒針が基準位置（12 時位置）まで移動します。



★ストップウオッチ分・秒針が基準位置にある場合は、手順 *6.* に進みます。

5. 基準位置を合わせる

Ⓒ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに 1 秒ずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに 1 秒ずつ戻ります。ストップウオッチ秒針・分針を基準位置（12 時位置）に合わせます。

※ Ⓒ または Ⓑ ボタンを約 2 秒間押し続けてからボタンを離すと、自動的に早送りされます。

※ 早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

★設定が終わったら、手順 *6.* に進みます。

6. 基準位置合わせを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡時刻モードに戻り、通常の時刻を表示します。



製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz

精　　度：電波受信による時刻修正をしない場合は、
平均月差±15秒以内

基本機能：時・分・秒、
24 時間制

電波時計機能：自動受信・手動受信
受信結果確認機能
受信局自動選択機能（JJY のみ対応）
受信電波＝
コールサイン：JJY（40kHz/60kHz）、
BPC（68.5kHz）

ストップウオッチ機能：計測単位＝ 1 秒
計測範囲＝ 20 分 00 秒（20 分計）
計測機能＝通常計測、積算計測

そ の 他：自動復帰機能、パワーセービング機能

主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子
ワンチップ CMOS-LSI

使用電池：二次電池

持続時間：約 8 ヵ月
（光に当てないで、1 日あたり、電波受信
1 回（約 3 分）使用した場合）


memo


memo

ご使用上の注意

■ 防水性

● 防水時計は時計の表面または裏蓋に「WATER RESIST」「WATER RESISTANT」と表示されているもので、次のように分類されます。

		日常生活用防水	日常生活用強化防水		
			5 気圧防水	10 気圧防水	20 気圧防水
表示	時計の表面または裏蓋に表記	「BAR」表記無し	5BAR	10BAR	20BAR
使用例	洗顔、雨	○	○	○	○
	水仕事、水泳	×	○	○	○
	ウインドサーフィン	×	×	○	○
	スキンダイビング（素潜り）	×	×	○	○

• 専門的な潜水＝スキューバダイビング（空気ボンベ使用）でのご使用はお避けください。

● 時計の表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANT と表示されていないものは防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。

● 防水構造の機種でも水中や、水分のついたまま、りゅうずやボタンの操作をしないでください。

● 防水構造の機種でも、時計をつけたままの入浴、洗剤等（石鹸・シャンプーなど）のご使用をお避けください。防水性能を低下させる原因となります。

● 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。

● 防水性を保つために定期的（2 ～ 3 年を目安）なパッキン交換をおすすめします。

● 電池交換の際、防水試験を行いますので、必ずお買い上げの販売店あるいは最寄りのカシオテクノリペアセンターにお申し付けください（特殊な工具を必要とします）。

● 防水時計の一部にデザイン上、皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

● 時計が急冷された場合など、ガラスの内側が曇ることがありますが、すぐに曇りが無くなるようであれば特に問題はありません。曇りが消えなかったり、水が時計内部に浸入した場合は、そのままご使用にならず、ただちに修理することが必要です。

● 時計内部に浸入した水は、電子部品や機械、文字板などを破損する原因となります。

■ バンド

● バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。

● バンドは劣化やさび（錆）などにより切れたり外れたりする場合があり、時計の落下や紛失の原因となります。バンドは、常にお手入れしていただき、清潔にご使用ください。
バンドに弾力性がなくなったり、ひび割れ・変色・緩みなどがある場合は、お早めに点検・修理（有償）または新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノリペアセンターにバンド交換（有償）をお申し付けください。

■ 温度

● 自動車のダッシュボードや暖房器具の近く等の高温になる場所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったり、故障の原因となります。

■ショック

● 通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。
ただし、耐衝撃構造の時計の場合（G-SHOCK/Baby-G/G-ms）は腕につけたままでチェーンソーなどの強い振動や、激しいスポーツ（モトクロスなど）でのショックを受けても時計には影響ありません。

■磁気

● アナログ時計やコンビネーション（アナログとデジタル）時計は、針を動かすために磁石の性質を利用したモーターを駆動させる方式を採用していますが、このモーターは強い磁気（オーディオ機器のスピーカー、磁気ネックレス、携帯電話など）を発生する器具に近づけるとモーターの回転に影響を受け、針の「遅れ・進み・止まり・誤った時刻表示」などの原因となります。

■静電気

● 静電気により誤った時刻を表示したりします。また、極度に強い静電気は、電子部品を破損する恐れがあります。

■薬品類

● シンナー、ガソリン、各種溶剤、油脂またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類等が付着すると、樹脂ケース、樹脂バンド、皮革などに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

■保管

● 長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■樹脂製品について

● 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が樹脂製品に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、他の製品に密着させたままにしないでください。
● 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま放置すると色あせする場合があります。
● 塗装部品は、使用状況（過度の外力、連続したこすれ、衝撃等）により磨耗し色落ちしたりすることがあります。
● バンドにプリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。
● 蛍光商品は、長時間濡れたままにしておくと色が落ちる恐れがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとって、乾かしてください。
● スケルトン（透明）仕様の部品は、汗や汚れ等の吸収や高温多湿への放置により変色を起こすことがあります。
● 樹脂部品の交換は、最寄りのカシオテクノリペアセンターにお申し付けください。有償にて申し受けます。

■ 天然皮革・合成皮革バンドについて

- 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が天然皮革や合成皮革に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、他の製品に密着させたままにしないでください。
- 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま長時間放置すると色あせする場合があります。
  ご注意：天然皮革・合成皮革は、摩擦・汚れにより色を移したり、色落ちすることがあります。

■ 金属製品について

- 金属を使用した製品・バンドは、ステンレスやメッキ品でも汚れたままご使用になりますと、さび（錆）が発生することがあります。汗をかいたときや水に濡らしたときは、柔らかい吸湿性の良い布などで良く拭き取った後に、通気性の良い場所に保管し、良く乾燥させてください。
- バンドは、時々、柔らかい歯ブラシなどにより、中性洗剤を水で薄めた液や石鹸水でバンドを洗って、良く手入れをしてください。このとき、時計の本体にかからないようご注意ください。

■ 抗菌防臭バンドについて

- 抗菌防臭バンドは汗などによる細菌の増殖を抑え、においの発生を防ぎ、常に清潔で快適な装着感が得られます。抗菌・防臭の効果を上げるために、バンドの汚れ、汗、水分等は吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にしてご使用ください。抗菌防臭バンドは微生物や細菌の増殖を抑えるためのもので、アレルギー等による皮膚のかぶれ等を抑えるものではありません。

万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

お手入れについて

■ お手入れのしかた

- ケース·バンドは汚れからさびが発生し、衣服の袖口を汚したり、皮膚がかぶれたり時計の性能が劣化することがあります。ケース·バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとさび易くなります。
- 樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また布等で簡単にふきとることができます。
- 皮革バンドは乾いた布で軽く拭くなどして常に清潔にしてご使用ください。樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。
- バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げの販売店または最寄りのカシオテクノリペアセンターにバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても有償にて申し受けます。
- 時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。

■ お手入れを怠ると

〈さび（錆）〉

- 時計で使用している金属はさびにくい性質ですが、汚れによりさびが発生します。
  - 汚れにより酸素が絶たれると、表面の酸化皮膜が維持できなくなり、さびが発生します。
- 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやさびがしみ出して、衣類の袖を汚したり、皮膚がかぶれたり、時計の性能が劣化することがあります。

〈劣化〉

- 樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に放置すると経年劣化し、切れたり、折れたりすることがあります。

〈かぶれ〉

- 皮膚の弱い方や体調により、かぶれたりすることがあります。特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをしてください。万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

本製品で使用している電池について

- 専用の二次電池を使用しておりますので、お客様は電池を取り外さないでください。専用の二次電池以外の電池を入れると時計の破損の原因になります。
- 二次電池は、ソーラーセルが受ける光により充電されますので、定期的な電池交換の必要はありません。ただし、長年の充電と放電を繰り返すことにより性能が劣化して、充電しても使用時間が短くなることがあります。その場合は、お買い上げの販売店またはカシオテクノお客様修理相談センターにご相談ください。

金属バンドの駒詰めについて

金属バンドの駒詰めには専用の工具が必要となります。
お取り扱いによる、部品の変形や破損、またはケガ等を予防するためにも、お買い上げの販売店にご相談ください。
なお、カシオテクノ・サービスステーションにおいても保証期間内は無償、保証期間経過後は有償にて承っております。
詳しくは、最寄りのカシオテクノ・サービスステーションまたはカシオテクノお客様修理相談センターへお問い合わせください。